

幼稚園の実態を踏まえた多様な動きを  
経験できる遊びの工夫を行った実践例  
(走力を伸ばす遊びを通して)

学校名 和歌山市立湊幼稚園 (和歌山県)

全校幼児数 〇66名 (男児29名 女児37名)  
(本事例に係る問合せ先)

電話番号 073(455)3822

メールアドレス kg.minato@wakayama-wky.ed.jp

1 研究のねらい

進んで体を動かす子供を育てる ～子供の実態に即した遊びから～

2 研究の概要

文部科学省が提唱している6項目の体力測定を行い、和歌山市3園(湊・宮前・山口)の幼児プログラムを作成し、園の取組を全13園に普及する

### 〇実践プログラムの紹介

◎「走る」「跳ぶ」「投げる」の基本的な体力測定を実施し、各園の実態に応じ、様々な運動や遊びを通じた環境の工夫に取り組む。『走る⇒走力を伸ばす遊び』

□ 地域や幼稚園等の実情を踏まえた特色ある遊び

①『園生活の見直し』園生活の中で遊びながら運動量の増加を目指す取組・丈夫な体づくり・食育



元気な源は、しっかり食べてしっかり動く。  
⇒活動意欲が高まり⇒体力向上へ

②『環境の見直し』◎園内・園庭・・・子供が自ら活動したくなる環境の工夫



◎戸外(地域の活用・園外保育の充実)・・・いろいろな体の動きが経験できる場



※注意点・・・水分補給や休息・安全面の確保



③『保護者との連携』情報の提供・保護者を巻き込んだ活動の充実

④『教職員の学び』研修会の参加・専門者からの学び



### 〇幼児の安全を確保するため配慮(工夫)したこと

- 1 教員数は限られているので、保護者にも協力を得、その範囲で見取ることができる環境での遊び
- 2 子供一人一人の発達段階や健康状態を理解した上での教師の支援や環境構成
- 3 用具や遊具を使用する際、危険でないかの確認と点検
- 4 子供がのびのび、楽しくするための最小限のルールづくり

### 〇成果の意義と今後の課題

- 1 遊びの一環で環境を整えたことで、子供たちに無理なくおろすことができた
- 2 過去3年間、体力向上に向けて取組んだものの、子ども・教職員・保護者が変わっているため、1年での取組み啓発では難しい。今後も引き続き幼児期における取組みを継続していきたい。

## ○研究内容

【砂浜でリレーをしたよ】地域の特性を活かし、近くのなみはやビーチへ・・・「いつもと違って走りにくいなー」



【走るの楽しいな】毎朝、隣接する小学校の広いグラウンドでマラソン。自分のペースで最後まで止まらず走ることが目標



【おにごっこ】3歳児でも簡単なルールで遊べるしっぽとり「にげろーおにがおいかけてくる」と言って大喜び



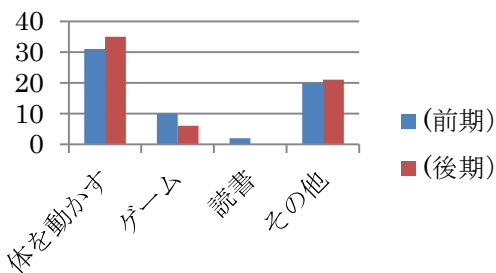
【お水ぐるぐる】園庭にあるプールで、こけないようにぐるぐる走って水流作り「水の中って走りにくいな〜」



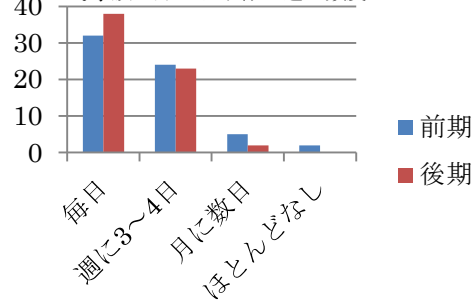
### アンケート結果から

家庭での運動に対する意識の変化について考える。

Q家庭での遊びの内容について



Q家族の方とお子様の遊ぶ頻度について



### 【健康な心と体を育てる運動遊び】

日々の保育の中で運動遊びの工夫や遊びの環境見直し、子供達への援助や支援の工夫などを実践

このような取組みを重ねていく中で、子供たちは体を動かすことを楽しみ、いろいろな運動遊びに挑戦するようになり、心の成長面においても変容が見られるようになってきました。今後も様々なご指導をいただきながら、子供たちの変容や成長を励みに、一層工夫した園環境の充実、幼小連携の一層の推進、教職員の運動遊びへの意識向上、保護者への啓発に努め、まだまだ課題もたくさんありますが今後もさらに研究を深めていきたいと考えています